

## IV 調査結果の分析

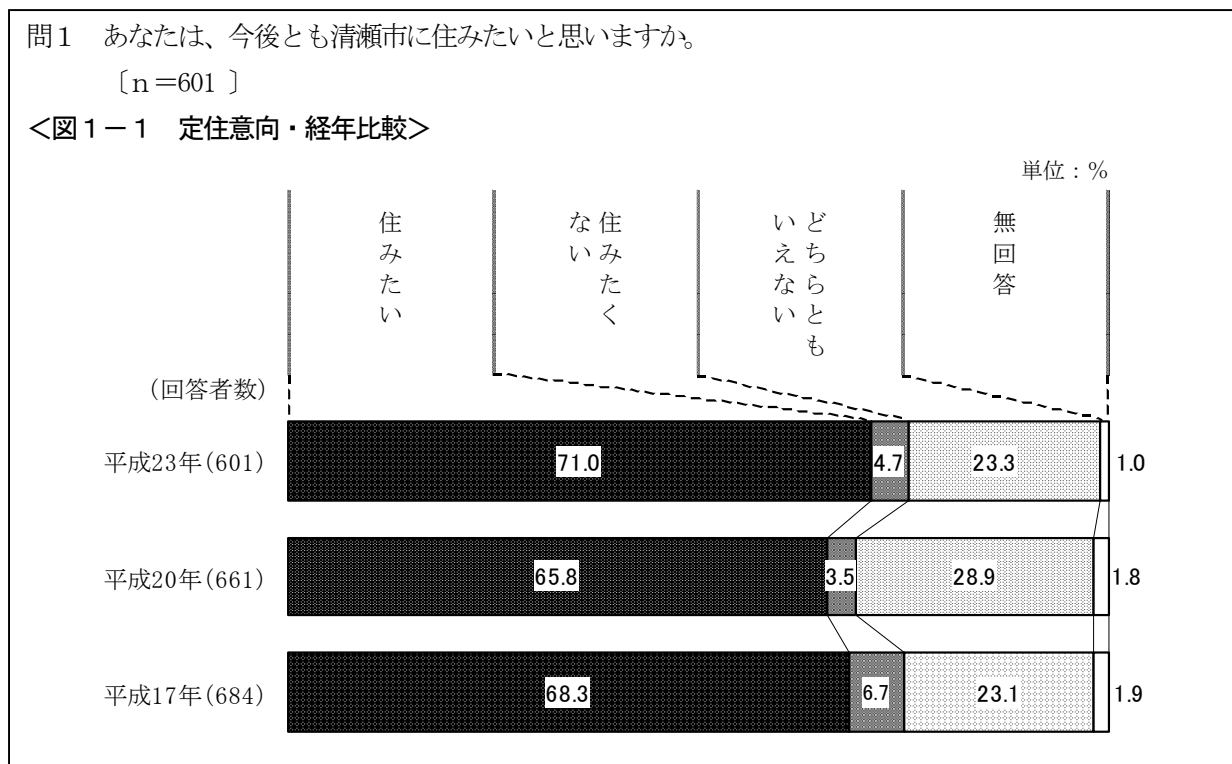
---



## IV 調査結果の分析

### 1 居住継続意思

#### (1) 定住意向



#### 【全体・経年比較】

全体では、「住みたい」が71.0%と最も多く、「住みたくない」4.7%を大きく上回る。「どちらともいえない」は23.3%となっている。

前回調査（平成20年）と比較すると、「住みたい」は5ポイント以上増加している。前々回（平成17年）からの経年変化をみると、「住みたい」は今回調査が最も多い7割台である。

#### 【性別・年齢別・町名別・居住年数別】

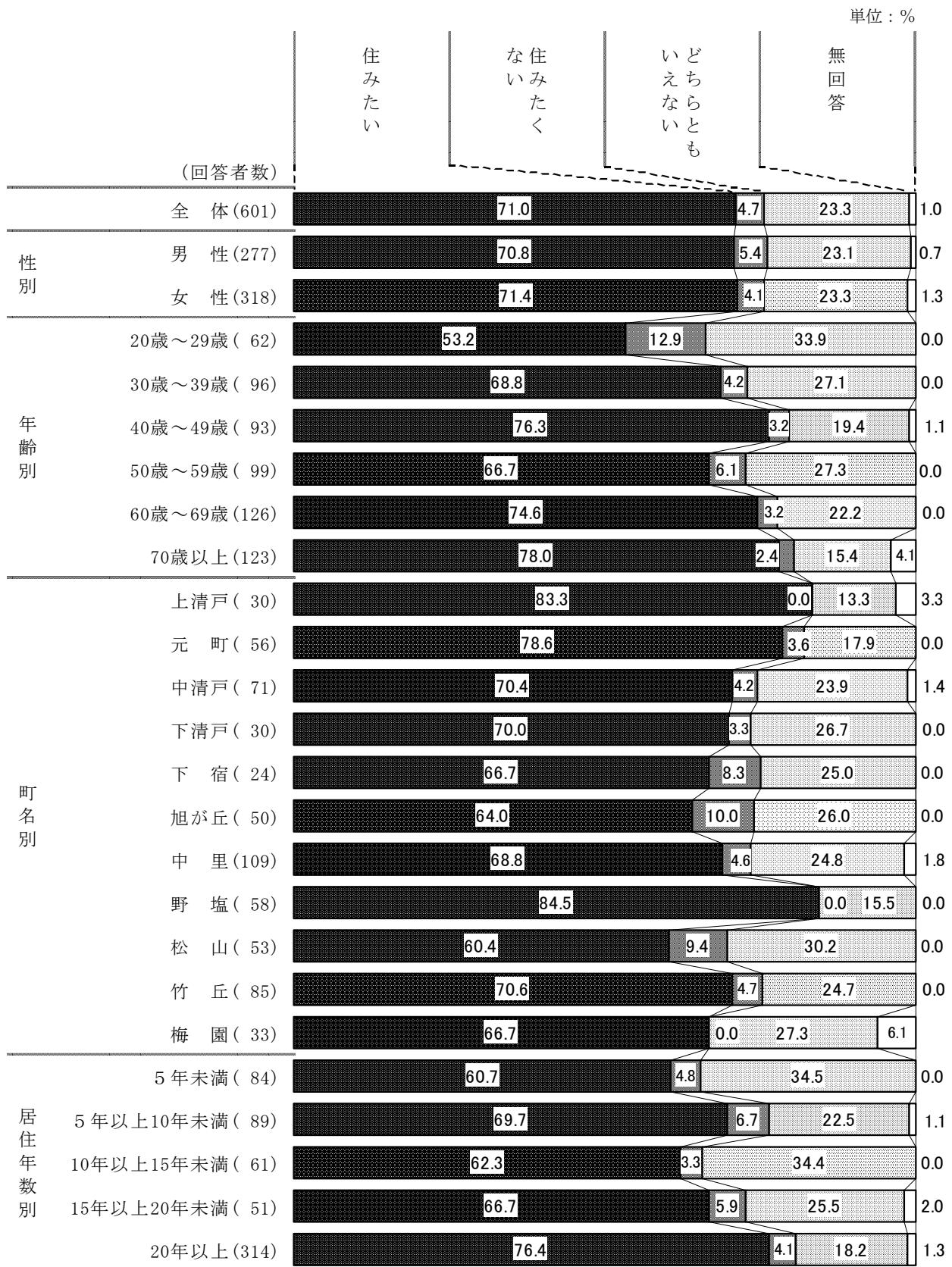
性別では、有意な差はみられないが、「住みたくない」は男性が女性をやや上回る。

年齢別では、「住みたい」は70歳以上で78.0%と最も多く、次いで40歳代の76.3%、60歳代74.6%などで7割を超える。一方、「住みたくない」は20歳代の12.9%が最も多く、次いで50歳代の6.1%、30歳代の4.2%などである。

町名別では、「住みたい」は多い順に、野塩84.5%、上清戸83.3%、元町78.6%、竹丘70.6%、中清戸70.4%、下清戸70.0%などで7割を超える。一方、「住みたくない」が最も少ないのは松山の60.4%である。

居住年数別では、20年以上が76.4%と、他の居住年数と比較すると最も多くなっている。

<図1-2 性別・年齢別・町名別・居住年数別>

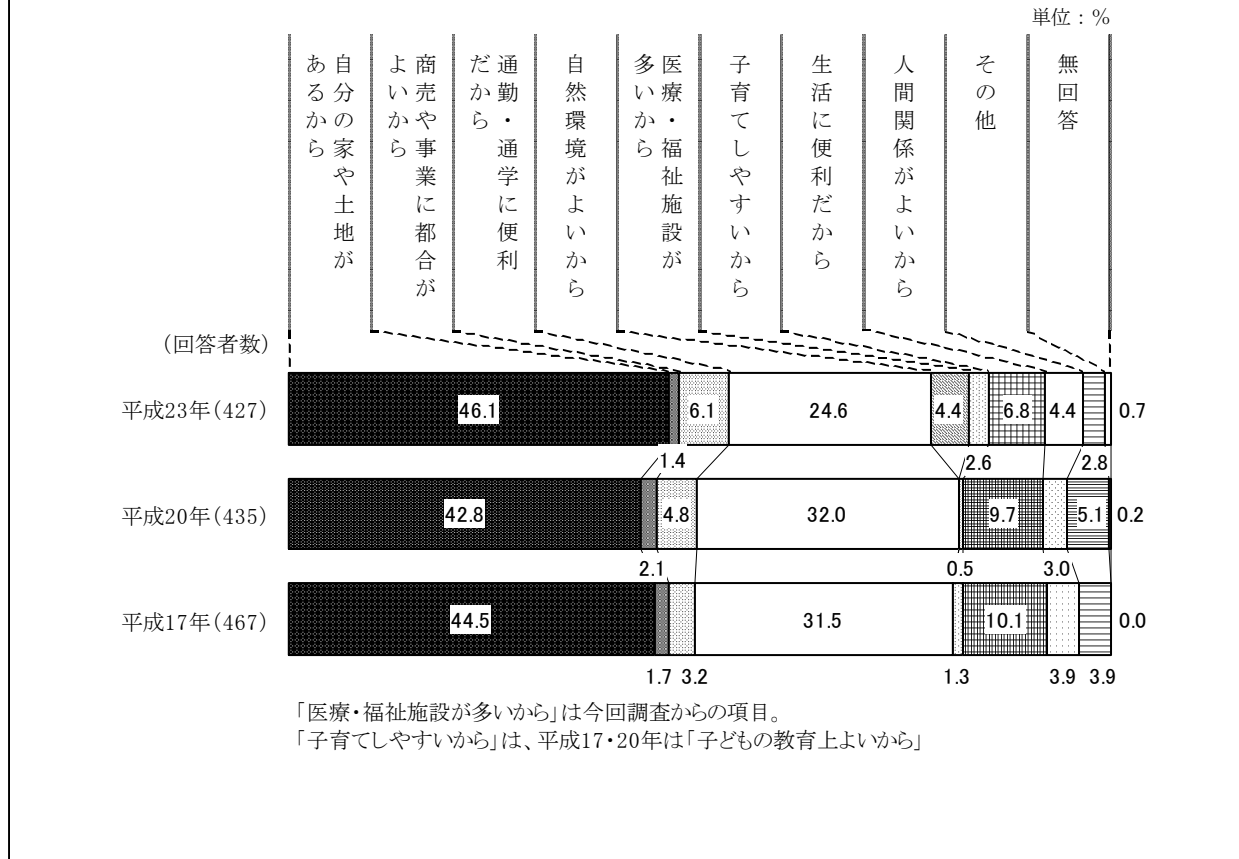


## (2) 住みたい理由

SQ1 問1で「①住みたい」とお答えの方にはうかがいます。その理由をお聞かせください。

[n=427]

<図1-3 住みたい理由・経年比較>



### 【全体・経年比較】

問1で「住みたい」と答えた方にその理由をたずねたところ、「自分の家や土地があるから」が46.1%と最も多く、次いで「自然環境がよいから」24.6%であり、この上位2項目で全体の7割程度を占める。

その他の項目はいずれも1割未満にとどまる。

経年変化でみると、「自分の家や土地があるから」は4割台で推移している。「自然環境がよいから」は前々回調査(平成17年度)、前回調査(平成20年)ともに3割台で推移していたが、今回調査では2割台に減少している。

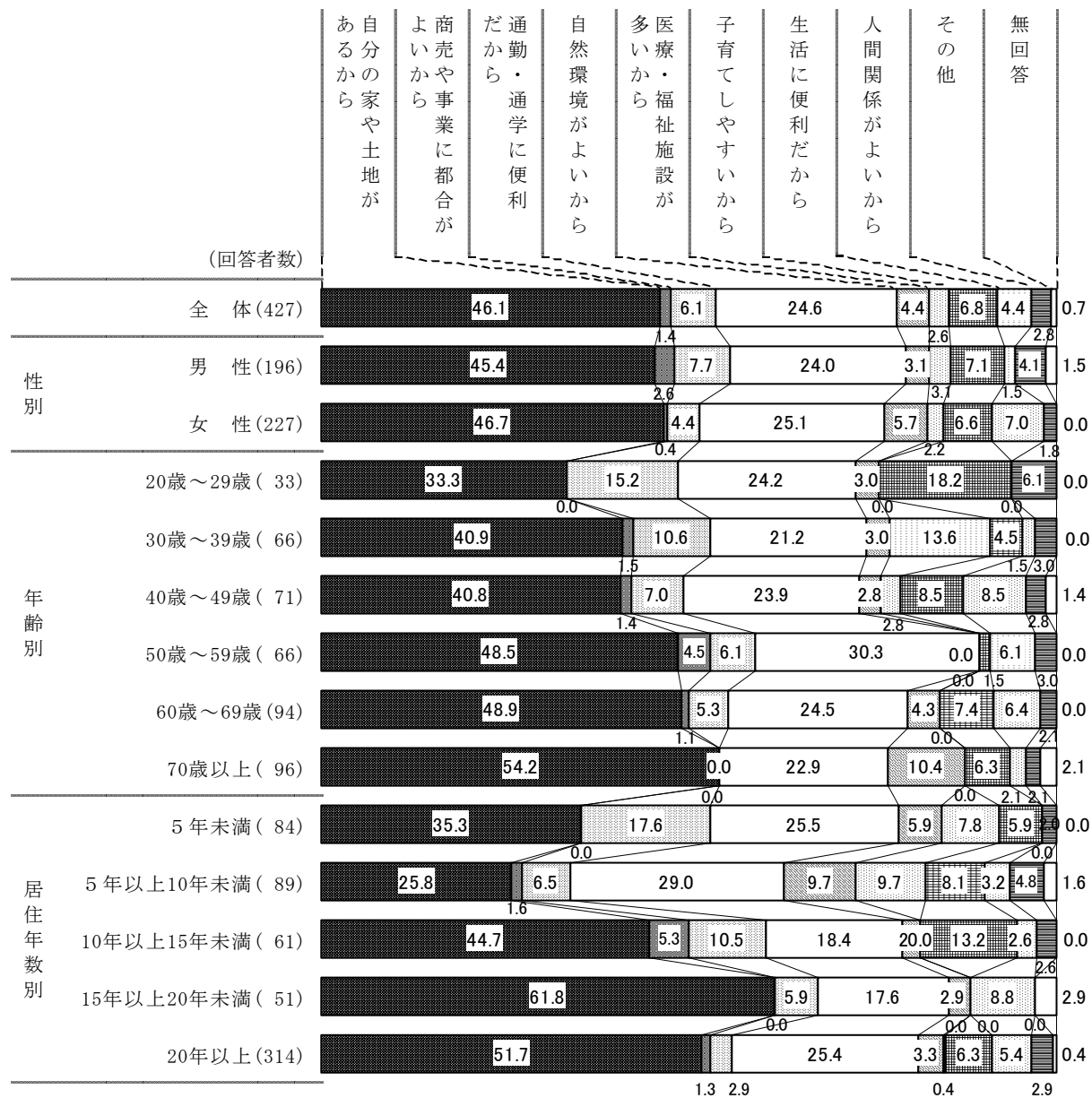
### 【性別・年齢別・居住年数別】

性別では、「自分の家や土地があるから」「自然環境がよいから」が上位2項目にある傾向は変わらないが、男性が女性を上回るものとして「通勤・通学に便利だから」(3.3ポイント差)、女性が男性を上回るのは「人間関係がよいから」(5.5ポイント差)などとなっている。

年齢別では、「自分の家や土地があるから」が70歳以上が54.2%と最も多く、次いで50歳代、60歳代ともに4割台後半と多い傾向にある。「自然環境がよいから」は50歳代のみ30.3%と3割を超える。

居住年数別では、「自分の家や土地があるから」は15年以上20年未満が61.8%と、他の居住年数に比べ突出して多い。また、「通勤・通学に便利だから」は、5年未満で17.6%と最も多い

<図1-4 性別・年齢別・居住年数別>

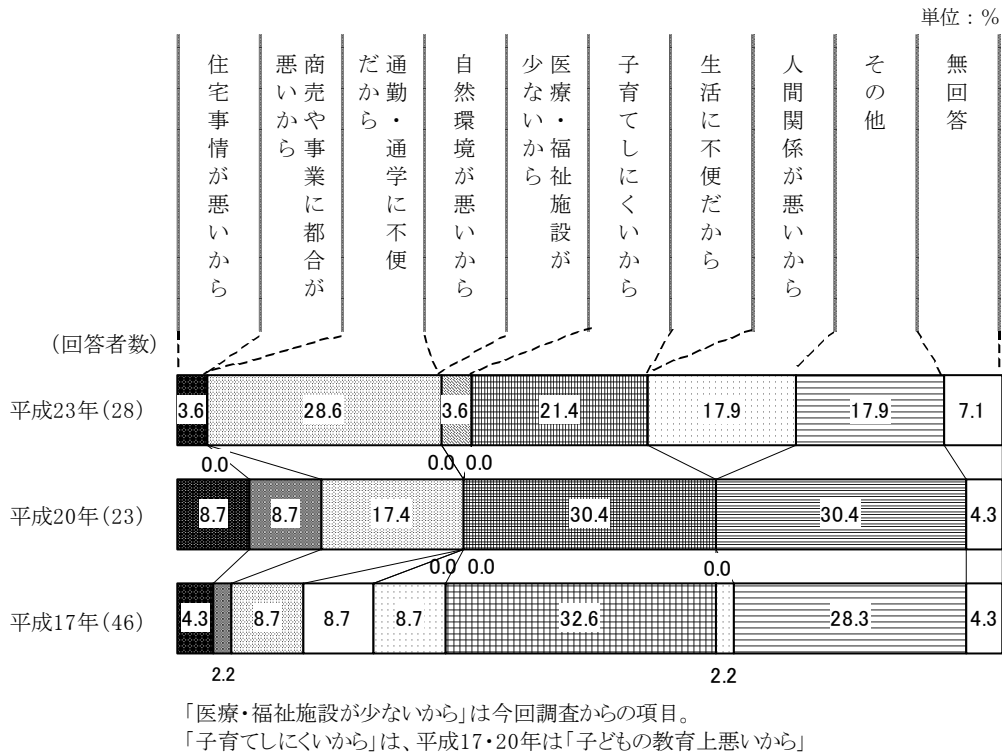


### (3) 住みたくない理由

SQ2 問1で「②住みたくない」とお答えの方にかがいます。その理由をお聞かせください。

[n=28]

<図1-5 住みたくない理由・経年比較>



#### 【全体・経年比較】

問1で「住みたくない」と答えた方にその理由をたずねたところ、「通勤・通学に不便だから」が28.6%と最も多く、次いで「生活に不便だから」21.4%、「人間関係が悪いから」17.9%などが続く。

経年変化をみると、「通勤・通学に不便だから」は、前々回調査（平成17年）8.7%、前回調査（平成20年）17.4%、今回調査28.6%と回を重ねるごとに増加している。「生活に不便だから」は、それぞれ32.6%、30.4%、21.4%と、今回調査で10ポイント程度減少している。

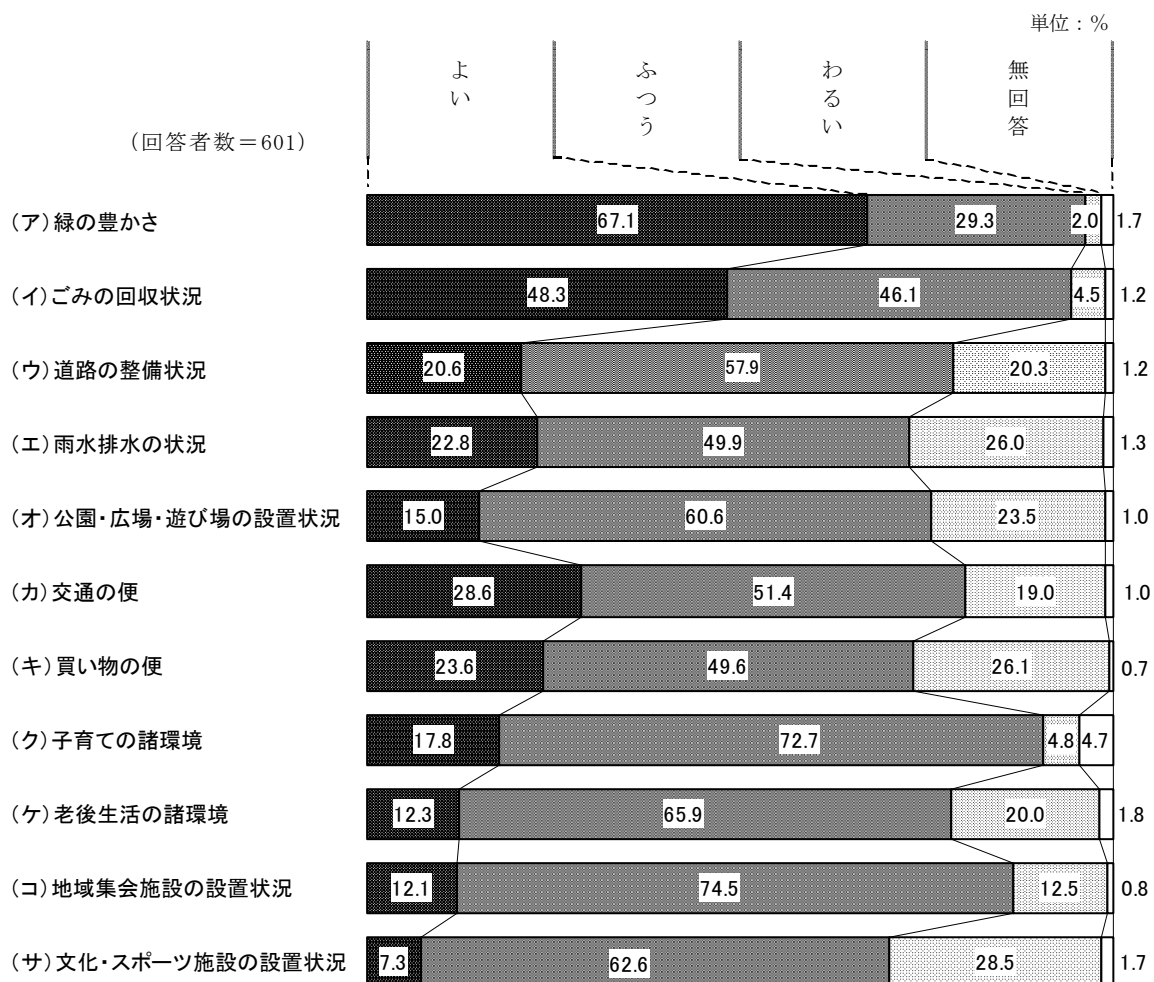
## 2 生活環境評価

### (1) 生活環境評価

問2 あなたの身近な生活環境についてうかがいます。(ア)～(サ)の各項目について、あなたの率直な気持ちをお聞かせください。

[n=601]

<図2-1 生活環境評価>



身近な生活環境を(ア)～(サ)までの11の項目に分け、それぞれの評価をたずねた。

「よい」との評価を満足、「わるい」を不満足として、それぞれの上位5項目をあげると次のようになる。

◎満 足		×不 満 足	
①緑の豊かさ	(67.1%)	①文化・スポーツ施設の設置状況	(28.5%)
②ごみの回収状況	(48.3%)	②買い物の便	(26.1%)
③交通の便	(28.6%)	③雨水排水の状況	(26.0%)
④買い物の便	(23.6%)	④公園・広場・遊び場の設置状況	(23.5%)
⑤雨水排水の状況	(22.8%)	⑤道路の整備状況	(20.3%)



## 《 加重平均値 》

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与えることで評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「よい」の回答者数} \times 10 \text{ 点} + \text{「わるい」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{ 点}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は+10.00点～▲10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど「よい」との評価は高くなり、逆に▲10.00点に近くなるほど「わるい」との評価が高くなる。これによる評価点の高いものと、低いもの上位5項目は次のようになっている。

◎満 足		×不 満 足	
①緑の豊かさ	+6.62	①文化・スポーツ施設の設置状況	▲2.15
②ごみの回収状況	+4.43	②公園・広場・遊び場の設置状況	▲0.86
③子育ての諸環境	+1.36	③老後生活の諸環境	▲0.78
④交通の便	+0.97	④雨水排水の状況	▲6.32
⑤道路の整備状況	+0.03	⑤買い物便	▲0.25

11 項目の合計点を市全体及び町名別で比較すると次のようになる。

<b>市全体の合計点</b>	9.02
①上清戸	20.90
②竹丘	14.71
③野塩	12.48
④松山	11.58
⑤元町	11.22
⑥中里	8.44
⑦中清戸	7.92
⑧旭が丘	5.38
⑨梅園	5.06
⑩下宿	▲ 6.25
⑪下清戸	▲ 6.62

<表2-1 生活環境評価・町名別加重平均値>

単位：%

	生活環境											
	合計点	緑の豊かさ	ごみの回収状況	道路の整備状況	雨水排水の状況	公園・広場・遊び場の設置状況	交通の便	買い物の便	子育ての諸環境	老後生活の諸環境	地域集会施設の設置状況	文化・スポーツ施設の設置状況
市全体(平成23年)	9.02	6.62	4.43	0.03	▲0.32	▲0.86	0.97	▲0.25	1.36	▲0.78	▲0.03	▲2.15
市全体(平成20年)	10.55	6.33	3.34	0.34	0.68	▲0.17	1.87	▲0.33	1.61	▲0.14	▲0.30	▲2.67
上清戸	20.90	7.14	2.86	0.00	2.14	▲1.72	4.48	2.33	2.33	0.33	1.00	0.00
元町	11.22	6.25	5.00	▲0.71	▲0.36	▲1.79	3.93	2.68	0.75	▲0.54	▲0.18	▲3.82
中清戸	7.92	7.00	4.00	▲0.43	▲2.86	1.29	▲0.29	▲2.00	1.94	▲1.16	1.43	▲1.00
下清戸	▲6.62	7.33	2.33	0.33	▲2.33	▲1.00	▲3.33	▲4.00	1.38	▲1.00	▲2.33	▲4.00
下宿	▲6.25	6.67	3.33	0.42	▲0.83	▲2.50	▲4.17	▲3.75	▲0.42	▲2.92	▲1.25	▲0.83
旭が丘	5.38	7.76	4.69	1.43	0.61	0.00	▲0.82	▲3.80	1.30	▲3.40	▲1.20	▲1.20
中里	8.44	7.50	4.35	0.00	▲1.11	▲0.83	▲0.28	▲1.11	1.96	▲0.47	0.09	▲1.67
野塩	12.48	5.44	4.31	▲0.34	1.38	▲1.90	3.10	3.45	0.89	▲0.69	0.00	▲3.16
松山	11.58	3.58	5.85	▲0.57	▲1.13	▲2.64	4.34	3.77	0.83	▲0.20	0.57	▲2.83
竹丘	14.71	7.59	5.53	0.94	0.94	0.24	0.35	▲1.53	1.88	0.48	0.82	▲2.53
梅園	5.06	5.16	3.23	▲1.29	1.29	▲1.61	2.58	0.97	0.00	▲1.00	▲2.26	▲2.00

## ◆ 生活環境評価の比較（加重平均値） ◆

### 【全体・経年比較・町名別】

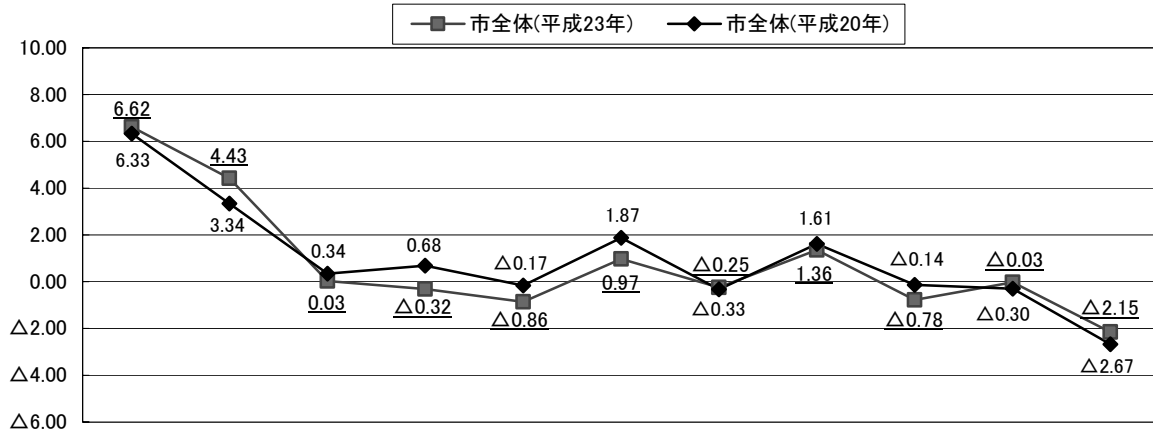
前回調査（平成 20 年）と比較すると、市全体の合計点は 1.53 点減少している。「雨水排水の状況」の 1.0 点減をはじめ、減少は 7 項目である。一方、「ごみの回収状況」の 1.09 点増など、増加は 4 項目である。

### 上 清 戸

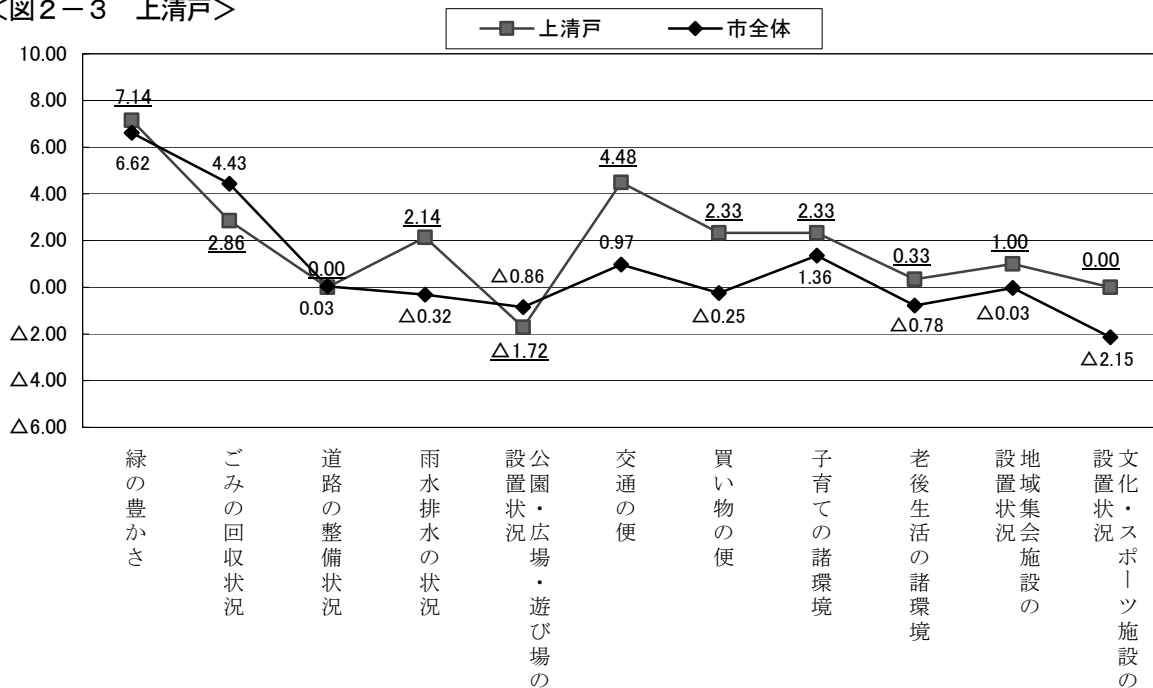
☆上回るもの……11 項目中 8 項目が市全体を上回っている。差が大きいものとしては「交通の便」の 3.51 点差、「買い物の便」の 2.58 点差、「雨水の排水状況」の 2.46 点差があげられる。

★下回るもの……11 項目中 3 項目が市全体を下回っている。差が大きいものとして「ごみの回収状況」の 1.57 点差があげられる。

<図 2-2 経年比較>



<図 2-3 上清戸>



## 元 町

☆上回るもの……11項目中4項目が市全体を上回っており、差が大きいものとしては「交通の便」の2.96点差、「買い物の便」の2.93点差があげられる。

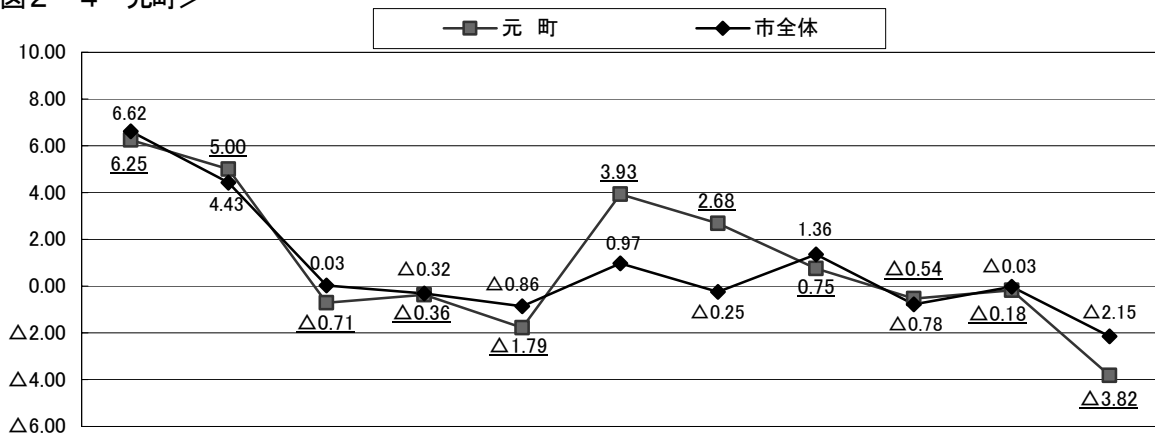
★下回るもの……11項目中7項目が市全体を下回っているが、特に大きな差はみられない。

## 中 清 戸

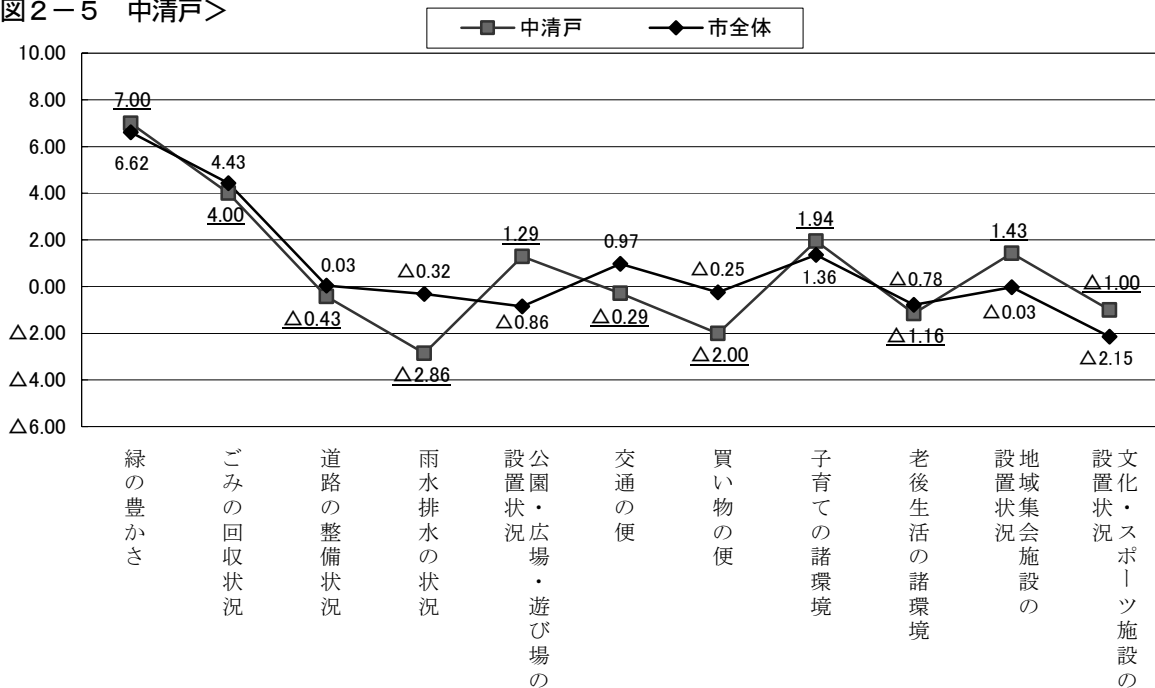
☆上回るもの……11項目中5項目が市全体を上回っており、差が大きいものとしては「公園・広場・遊び場の設置状況」の2.15点差があげられる。

★下回るもの……11項目中6項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「雨水排水の状況」の2.54点差、「買い物の便」の1.75点差があげられる。

<図2-4 元町>



<図2-5 中清戸>



## 下清戸

☆上回るもの……11項目中3項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

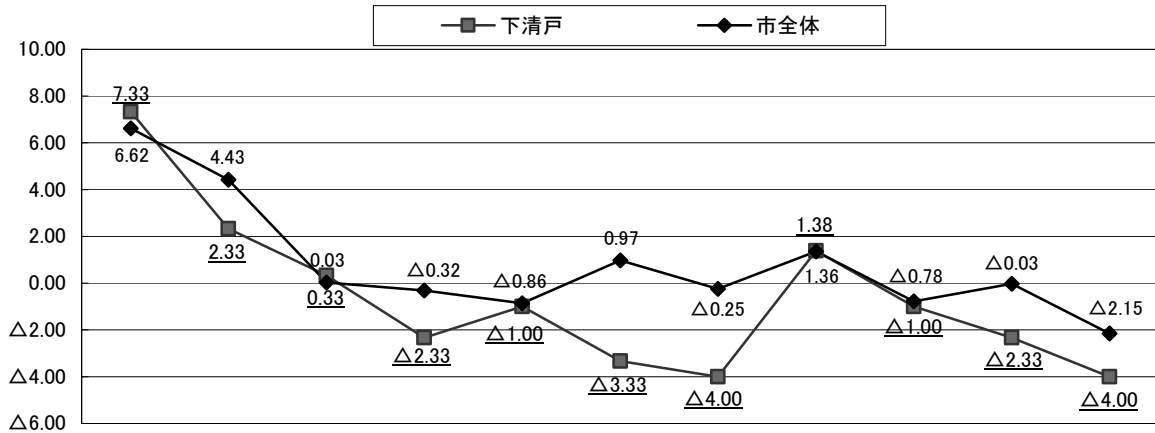
★下回るもの……11項目中8項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「交通の便」の4.3点差、「買い物の便」の3.75点差、「ごみの回収状況」の2.1点差、「雨水排水の状況」の2.01点差があげられる。

## 下宿

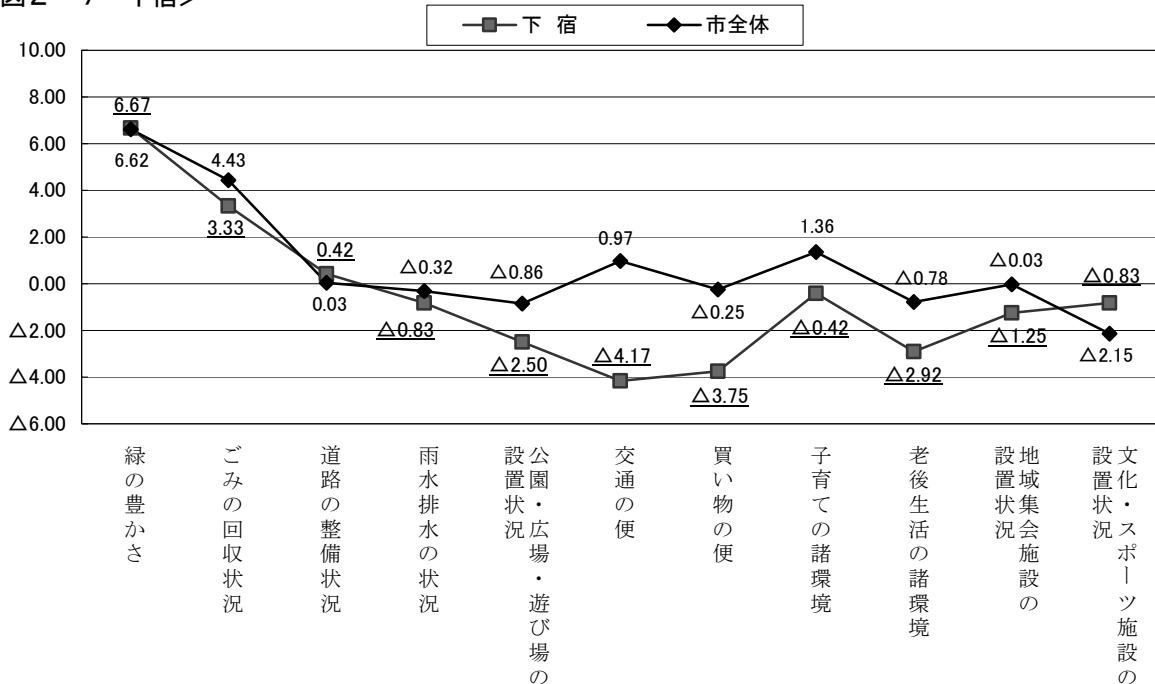
☆上回るもの……11項目中3項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

★下回るもの……11項目中8項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「交通の便」の5.14点差、「買い物の便」の3.5点差、「老後生活の諸環境」の2.14点差があげられる。

<図2-6 下清戸>



<図2-7 下宿>



## 旭が丘

☆上回るもの……11項目中6項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

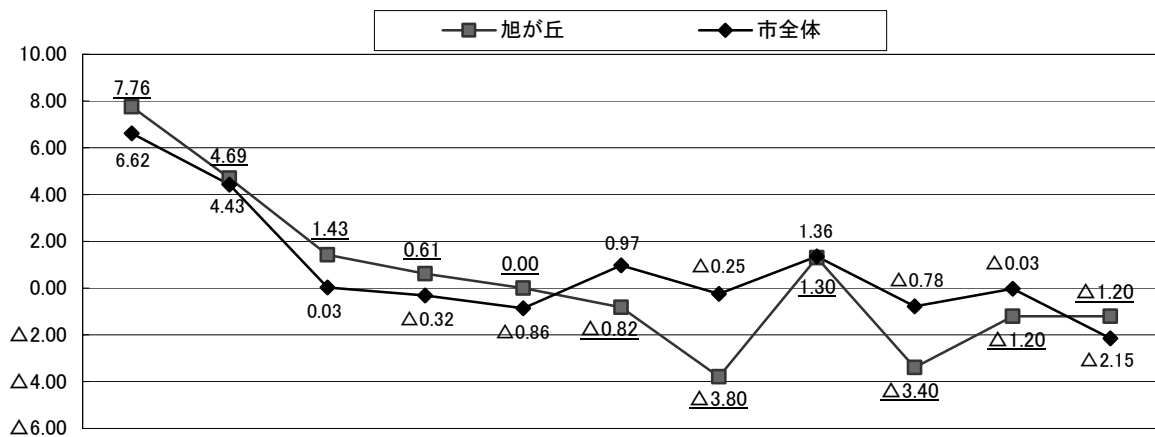
★下回るもの……11項目中5項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「買い物の便」の3.55点差、「老後生活の諸環境」の2.62点差があげられる。

## 中里

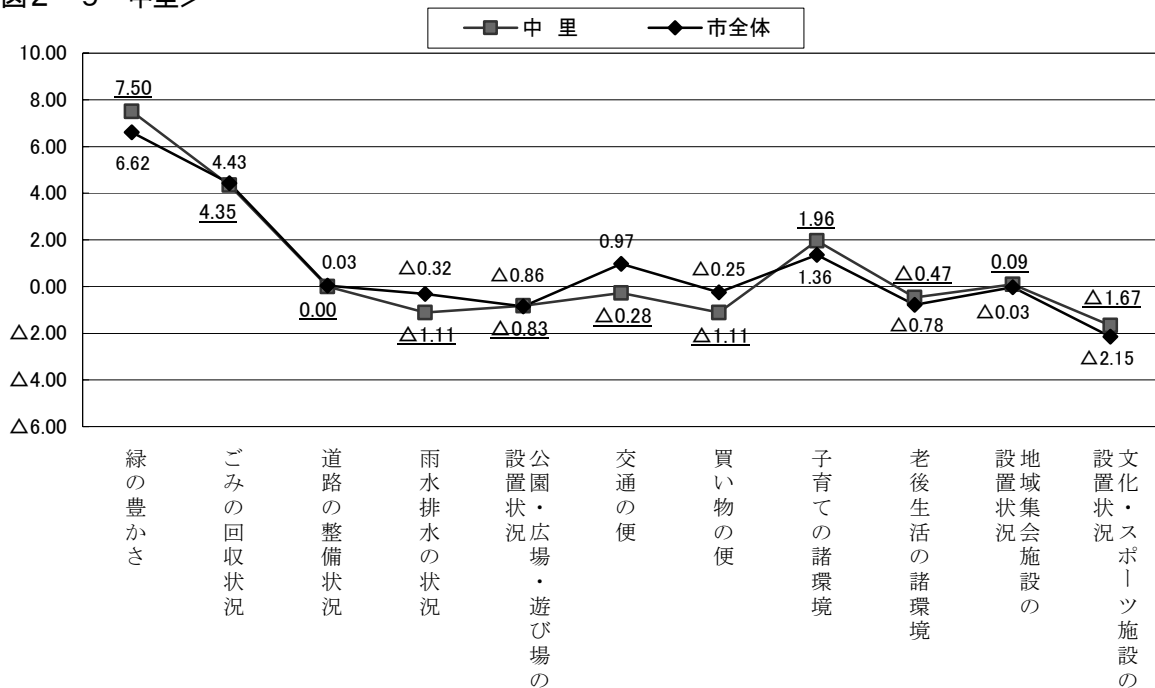
☆上回るもの……11項目中6項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

★下回るもの……11項目中5項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「交通の便」の1.25点差、「買い物の便」の0.86点差、「雨水排水の状況」の0.79点差があげられる。

<図2-8 旭が丘>



<図2-9 中里>



## 野 塩

☆上回るもの……11項目中5項目が市全体を上回っており、差が大きいものとしては「買い物の便」3.7点差、「交通の便」の2.13点差があげられる。

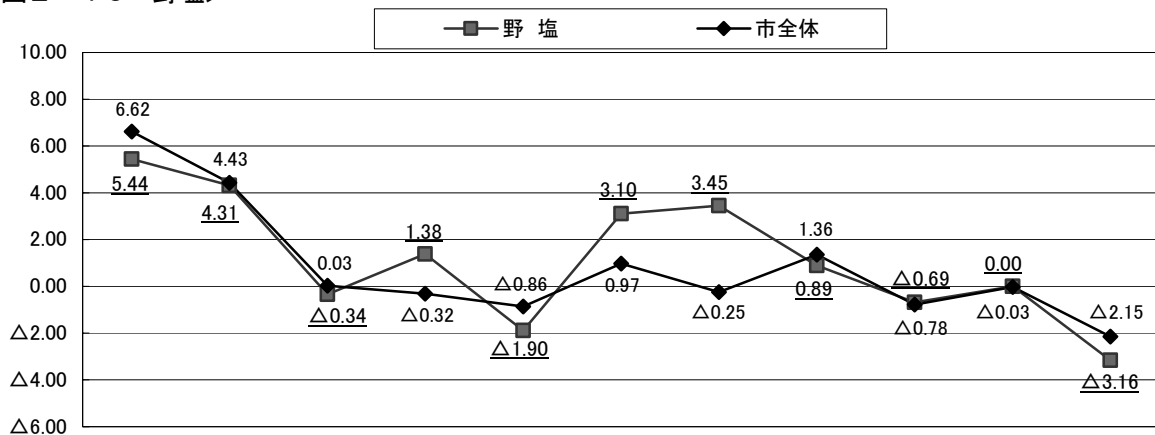
★下回るもの……11項目中6項目が市全体を下回っており、比較的差が大きいものとして「緑の豊かさ」の1.18点差、「文化・スポーツ施設の設置状況」の1.01点差があげられる。

## 松 山

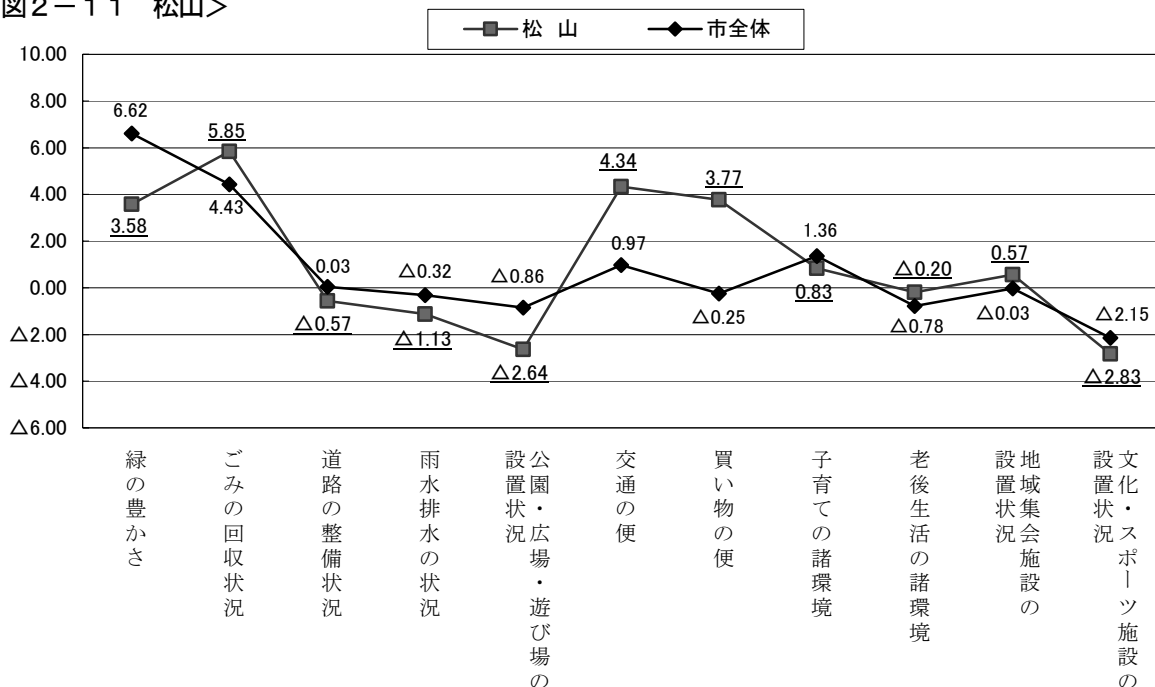
☆上回るもの……11項目中5項目が市全体を上回っており、差が大きいものとしては「買い物の便」4.02点差、「交通の便」の3.37点差があげられる。

★下回るもの……11項目中6項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「緑の豊かさ」の3.04点差、「公園・広場・遊び場の設置状況」の1.78点差があげられる。

<図2-10 野塩>



<図2-11 松山>



## 竹 丘

☆上回るもの……11項目中8項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

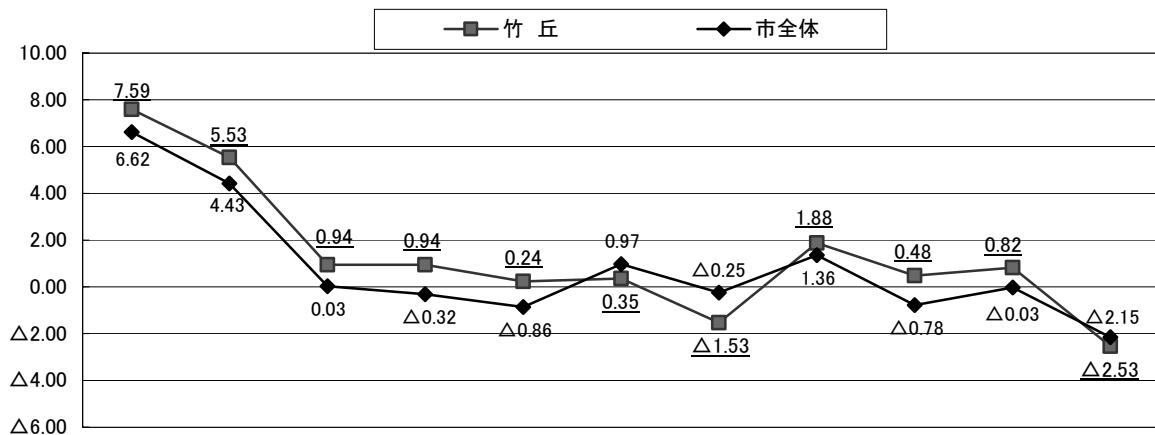
★下回るもの……11項目中3項目が市全体を下回っているが、特に大きな差はみられない。

## 梅 園

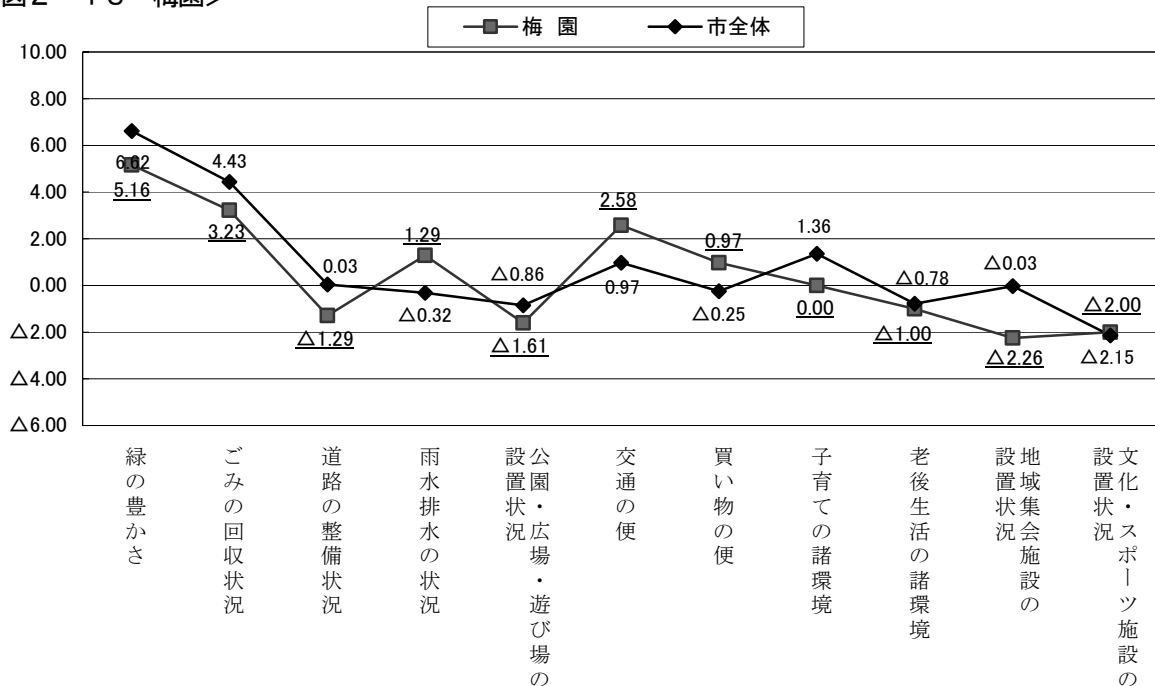
☆上回るもの……11項目中4項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

★下回るもの……11項目中7項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「地域集会施設の設置状況」の2.23点差があげられる。

<図2-12 竹丘>

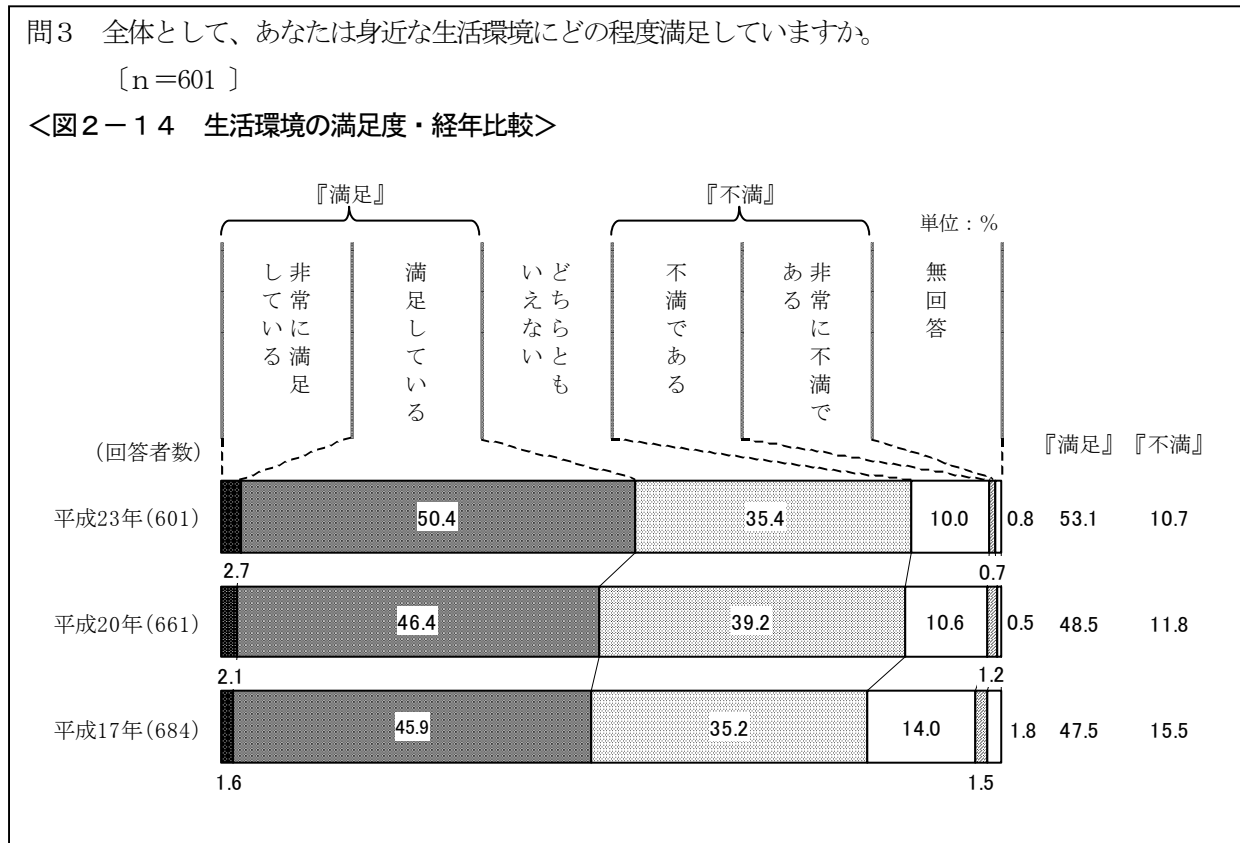


<図2-13 梅園>





## (2) 生活環境の満足度



### 【全体・経年比較】

全体では、「満足している」が50.4%と最も多く、「非常に満足している」2.7%を合わせた『満足』は53.1%と過半数を占める。一方、「不満である」10.0%と「非常に不満である」0.7%を合わせた『不満』は10.7%と1割程度である。

経年比較でみると、「満足している」は、前々回調査（平成17年）45.9%、前回調査（平成20年）46.4%、今回調査50.4%と徐々に増加している。それに合わせ、『不満』はそれぞれ15.5%、11.8%、10.7%と減少傾向にある。

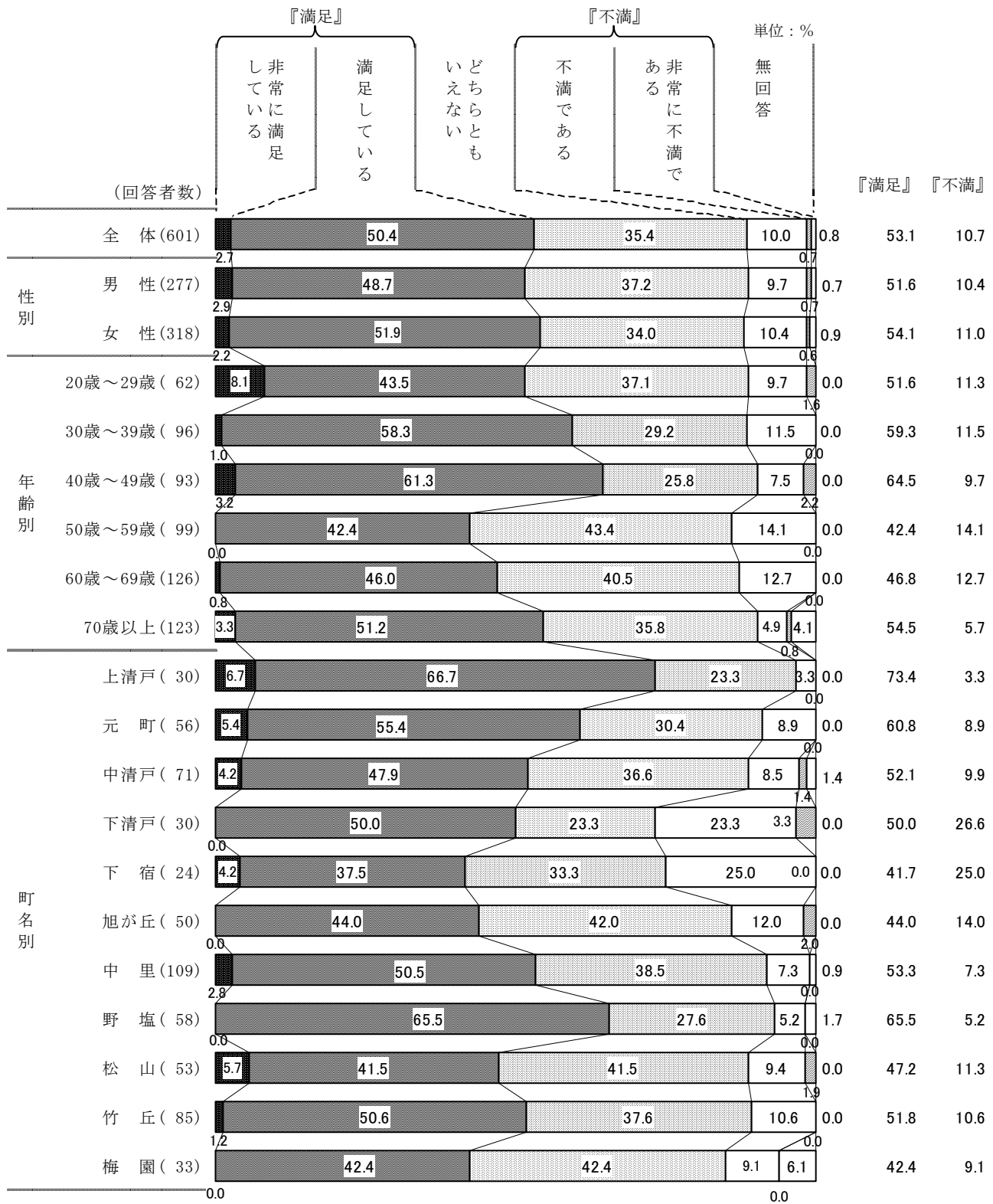
### 【性別・年齢別・町名別】

性別では、『満足』は女性54.1%が男性51.6%を2.5ポイント上回る。

年齢別では、『満足』は40歳代の64.5%が最も多く、次いで30歳代59.3%、70歳以上54.5%などの順である。反対に『不満』は、50歳代の14.1%で最も多く、次いで60歳代12.7%などであるが、70歳以上では5.7%と少なくなっている。

町名別では、『満足』は多い順に、上清戸73.4%、野塩65.5%、元町60.8%などであり、問1の定住意向で「住みたい」との回答が多かった地区と符号する。一方『不満』は、下清戸26.6%、下宿25.0%で特に多く、2割を超える。

<図2-15 性別・年齢別・町名別>



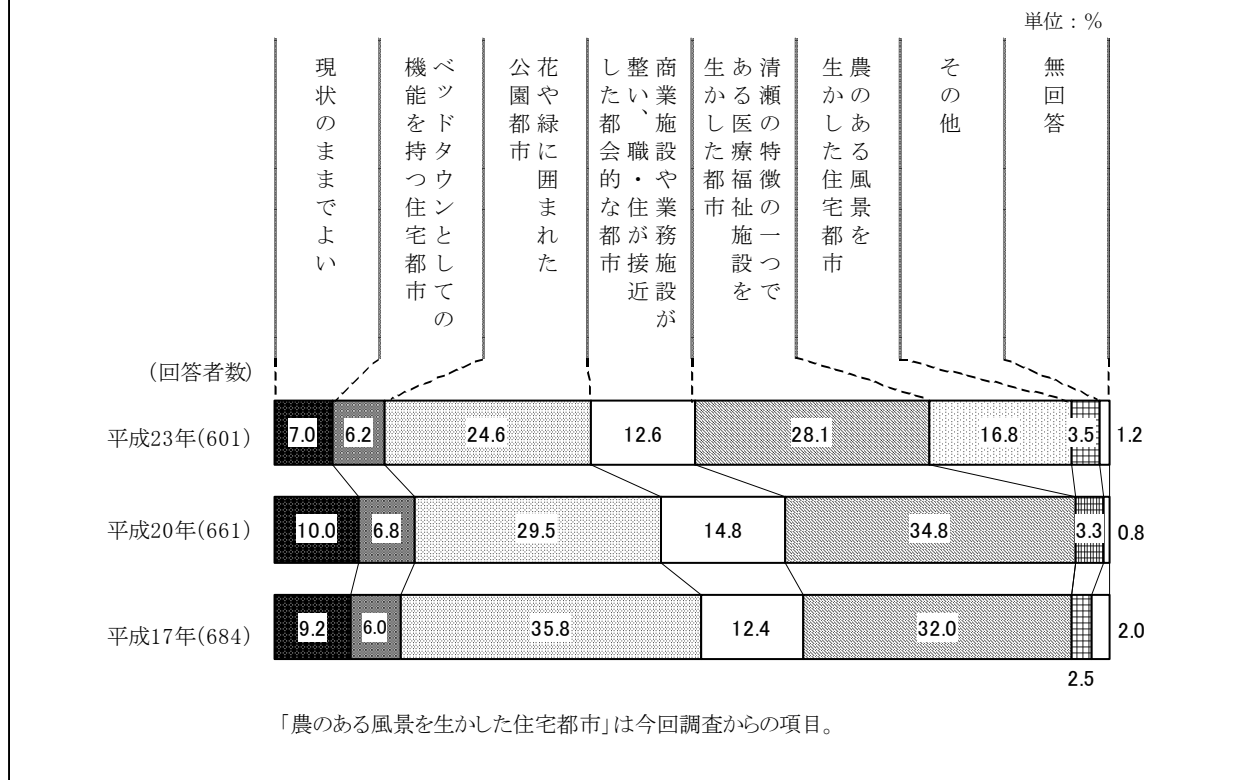
### 3 将来のまちのイメージ

#### (1) 市の将来像

問4 清瀬市は、「手をつなぎ、心をつむぐ、みどりの清瀬」をキャッチフレーズにまちづくりを進めていますが、あなたは将来清瀬市がどのような都市になるのが望ましいとお考えですか。

[n=601]

<図3-1 市の将来像・経年比較>



#### 【全体・経年比較】

市の将来像についてたずねたところ、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」が28.1%と最も多く、次いで「花や緑に囲まれた公園都市」24.6%であり、この上位2項目で全体の半数以上を占める。一方、今回新しく追加された選択肢である「農のある風景を生かした住宅都市」は16.8%となっている。

経年比較でみると、新しい設問が追加されたことから単純には比較できないが、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は、前回調査（平成20年）34.8%、前々回（平成17年）32.0%においても上位にあるが、今回調査では最も多い項目ではあるものの28.1%と減少している。一方、同じく上位にある「花や緑に囲まれた公園都市」はそれぞれ前々回（平成17年）35.8%、前回調査（平成20年）29.5%、今回調査24.6%と減少傾向にある。

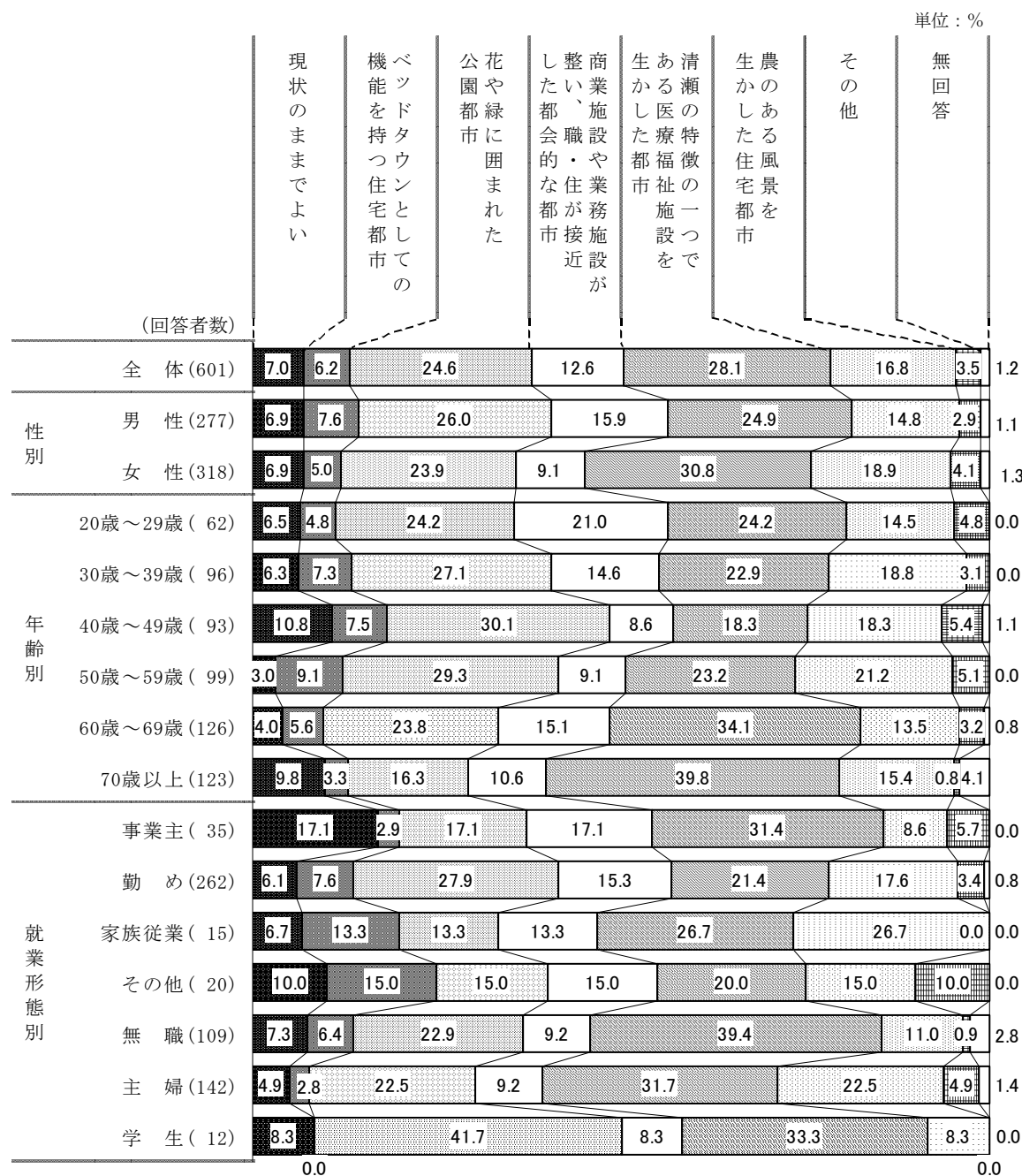
#### 【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみたときに、男性が女性を上回るのは「商業施設や業務施設が整い、職・住が接近した都会的な都市」「ベッドタウンとしての機能を持つ住宅都市」「花や緑に囲まれた公園都市」（それぞれ6.8ポイント差、2.6ポイント差、2.1ポイント差）、反対に女性が男性を上回るのは「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」「農のある風景を生かした住宅都市」（それぞれ5.9ポイント差、4.1ポイント差）となっている。

年齢別で見ると「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は60歳代34.1%、70歳以上39.8%と高齢層に多い。「花や緑に囲まれた公園都市」は20～50歳代までの層で最も多くなっている。一方、「農のある風景を生かした住宅都市」は50歳代21.2%のみ2割を超える。

就業形態別では、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」が無職39.4%と主婦31.7%で特に多くなっている。

<図3-2 生活環境の満足度・性別・年齢別・町名別>

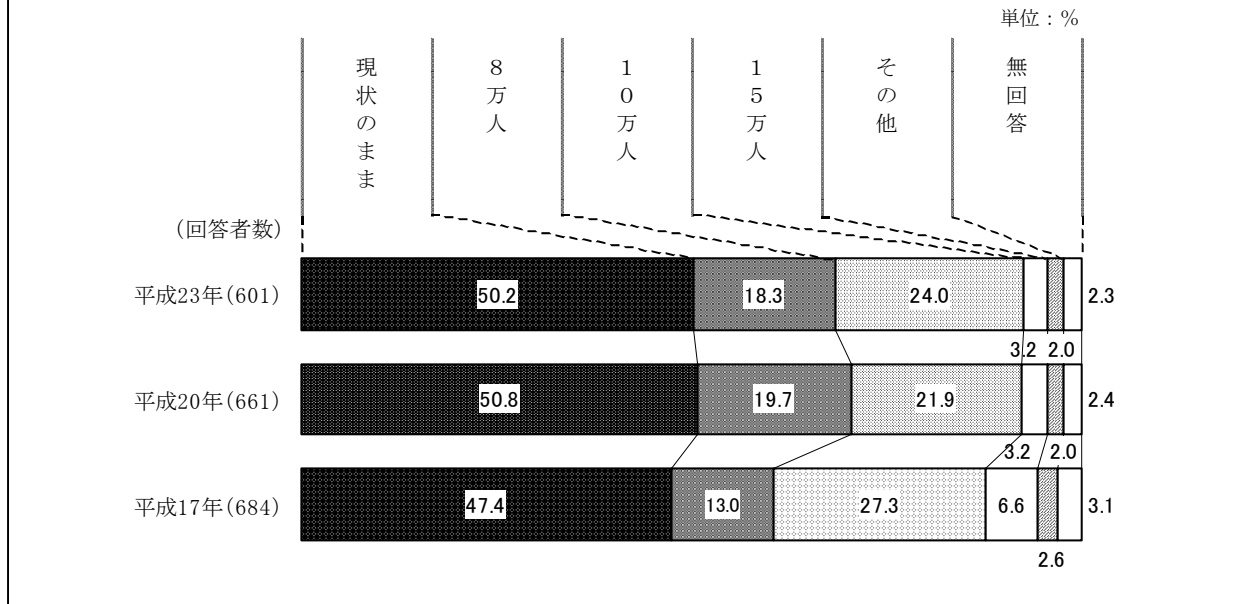


(2) 市の将来の人口

問5 現在、清瀬市の人口は7万4千人程度であり、清瀬市基本構想では目標年次である平成27年の人口を7万5千人と想定していますが、あなたが望むようなまちとなるためには、将来の清瀬市の人口はどれくらいが適当だと思いますか。

[n=601]

<図3-3 市の将来の人口・経年比較>



【全体・経年比較】

市の将来の人口については、「現状のまま」が50.2%と過半数を超える。次いで、「10万人」24.0%、「8万人」18.3%などの順である。

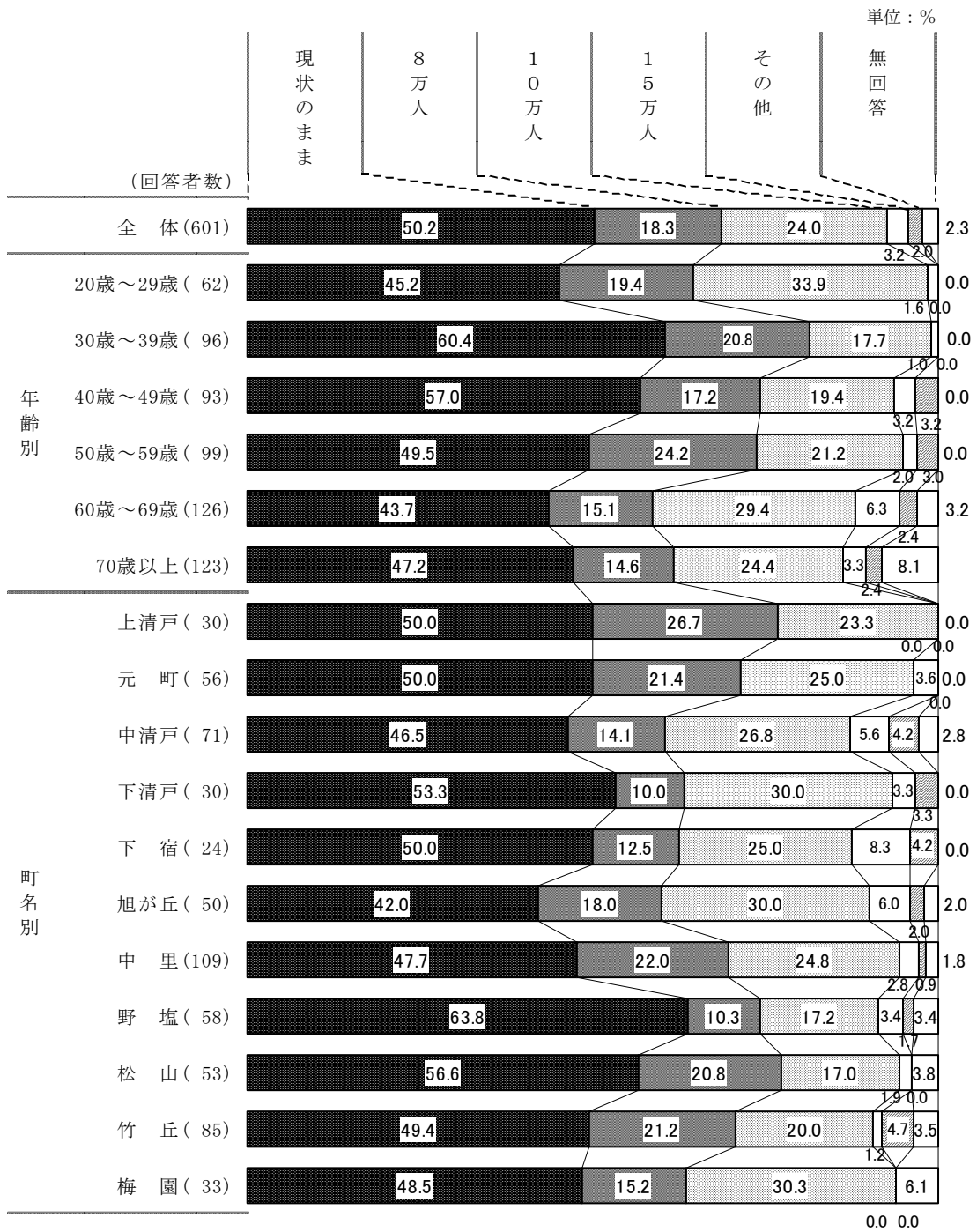
経年比較では、前回調査(平成20年)、前々回調査(平成17年)ともに「現状のまま」がそれぞれ50.8%、47.4%と最も多くなっている。次いで「10万人」「8万人」「15万人」と続く傾向も変わっていない。

【年齢別・町名別】

年齢別では、いずれの年代でも「現状のまま」が最も多い傾向にあるが、30歳代のみ60.4%と6割を超えている。一方、「10万人」は20歳代で33.9%、60歳代29.4%などで特に多くなっている。

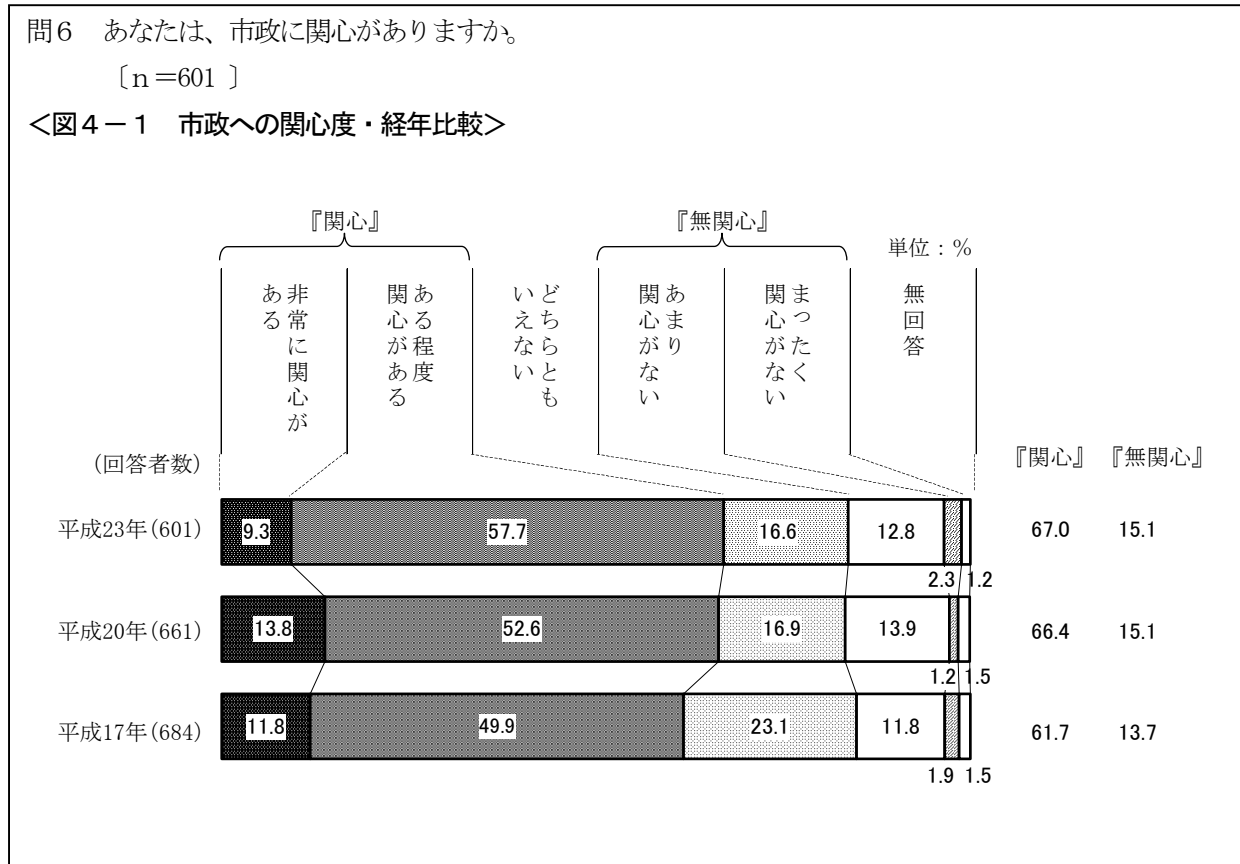
町名別では、「現状のまま」は野塩が63.8%で最も多く、次いで松山が56.6%と続いている。「8万人」は上清戸26.7%、中里22.0%、元町21.4%、竹丘21.2%、松山20.8%などでやや多く、2割を超える。一方、「10万人」は梅園30.3%、旭が丘、下清戸ともに30.0%で3割台と多くなっている。

<図3-4 年齢別・町名別>



## 4 市政への関心

### (1) 市政への関心度



#### 【全体・経年比較】

市政への関心度については、「ある程度関心がある」が57.7%と最も多く、次いで「どちらともいえない」16.6%、「あまり関心がない」12.8%などが続く。「非常に関心がある」9.3%と「ある程度関心がある」を合わせた『関心』は67.0%となる。一方、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」2.3%を合わせた『無関心』は15.1%と、1割台にとどまる。

経年比較では、前回調査（平成20年）と比較すると、「ある程度関心がある」は5.1ポイント増加、反対に「非常に関心がある」は4.5ポイント減少している。

#### 【性別・年齢別・就業形態別・居住年数別】

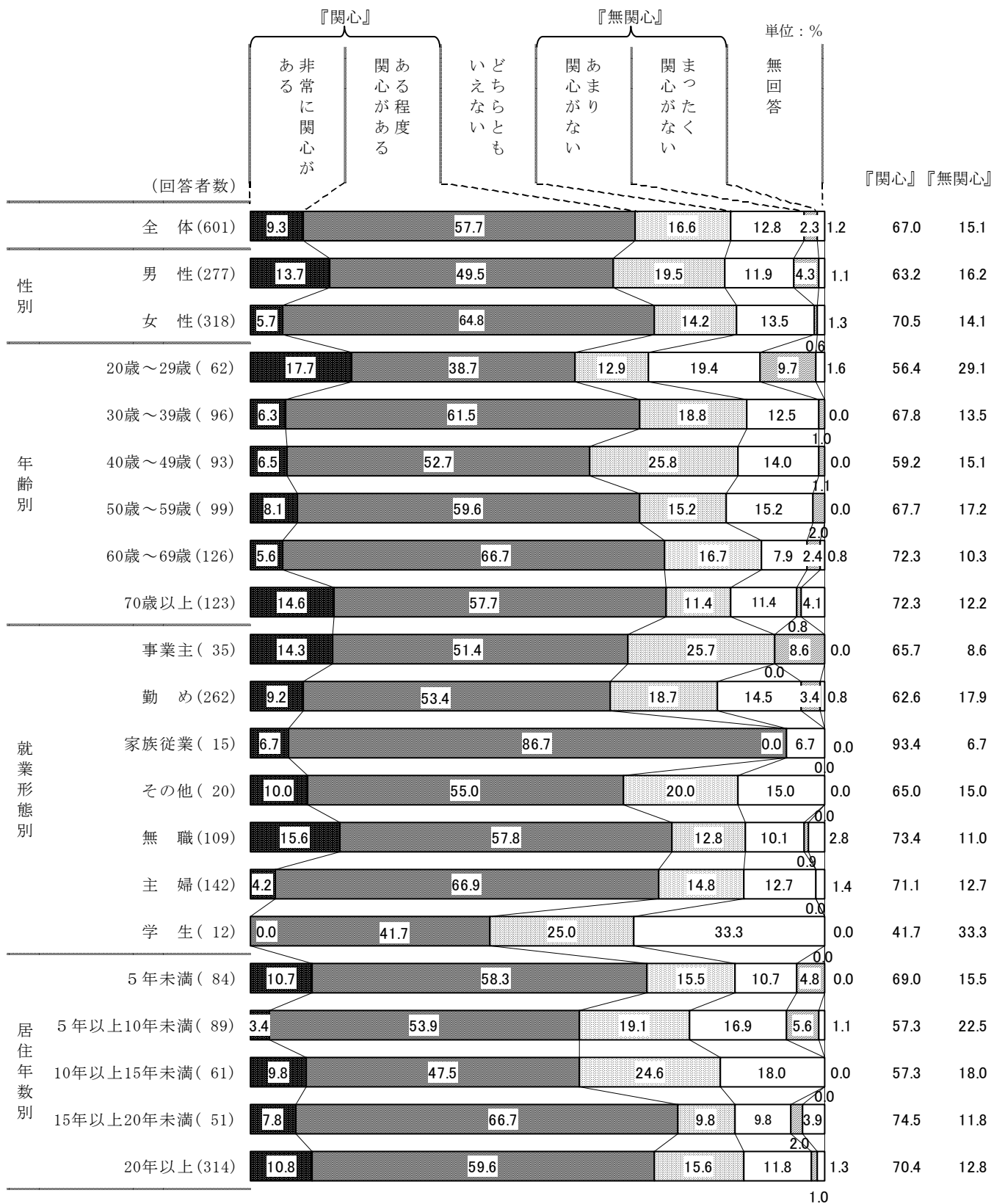
性別では、『関心』は女性70.5%が男性63.2%を7.3ポイント上回り、『無関心』は男性16.2%が女性14.1%を2.1ポイント上回る。

年齢別では、『関心』は60歳代72.3%、70歳以上72.3%と高齢層で特に多く7割を超える。反対に『無関心』は20歳代29.1%が最も多く、次いで50歳代、40歳代が各17.2%、15.1%と続いている。

就業形態別では、『関心』は家族従業が93.4%と最も多く、9割を超え、次いで無職、主婦が各73.4%、71.1%と多くなっている。

居住年数では、『関心』は15年以上20年未満の74.5%が最も多く、次いで20年以上70.4%と、居住年数が長い方が関心が高い傾向にある。

<図4-2 性別・年齢別・就業形態別・居住年数別>



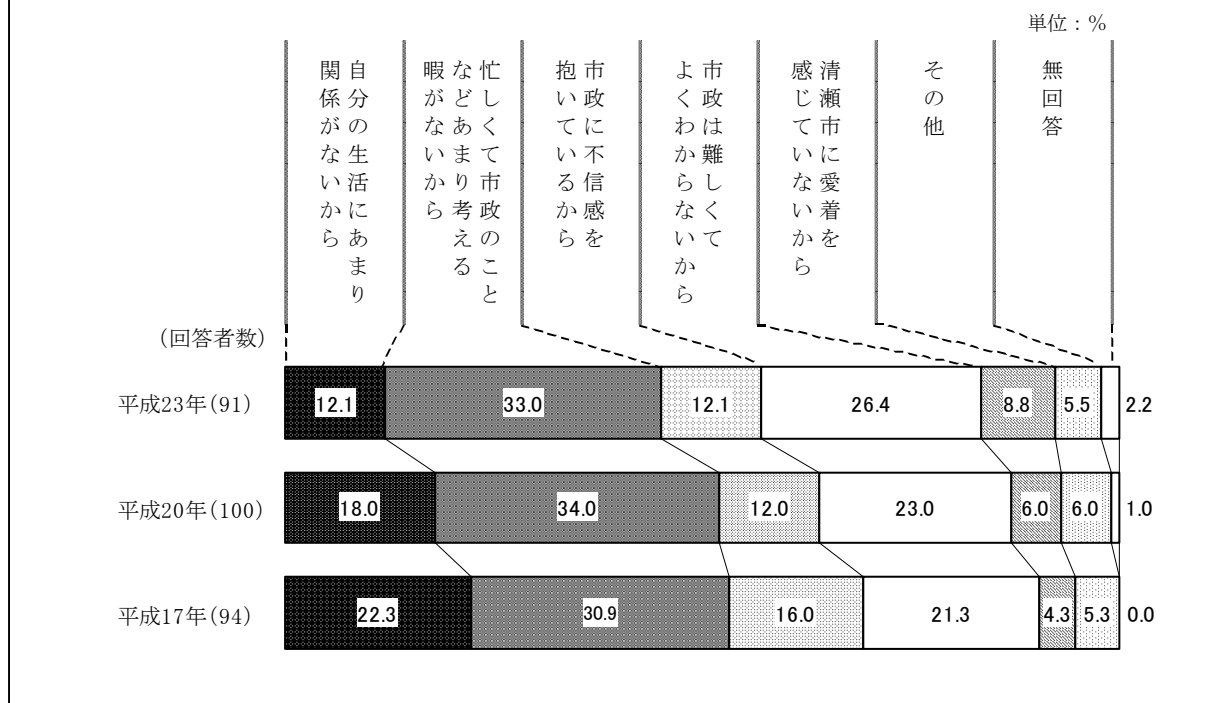


## (2) 関心がない理由

SQ1 問6で「④あまり関心がない」「⑤まったく関心がない」とお答えの方にかがいます。その理由を次の中からお答えください。

[n=91]

<図4-3 関心がない理由・経年比較>



### 【全体・経年比較】

問6で『関心がない』とした人にその理由をきいたところ、「忙しくて市政のことなどあまり考える暇がないから」が33.0%と最も多く、次いで「市政は難しくよくわからないから」26.4%などが主な理由である。

経年比較でみると、「忙しくて市政のことなどあまり考える暇がないから」「市政は難しくよくわからないから」が上位2項目にある状況は変わらないが、「自分の生活にあまり関係がないから」は前々回調査（平成17年）22.3%、前回調査（平成20年）18.0%、今回調査12.1%と回を重ねるごとに少なくなり、今回調査では前々回調査の約半分まで減少している。